

主催者あいさつ

SENA 会長／浜松市長 鈴木康友



第26回三遠南信サミット2018in東三河に、関係省庁初め、地方公共団体、経済団体、大学、市民団体など、多くの皆様にお集まりをいただき、また日ごろは三遠南信自動車道の整備促進はじめ、三遠南信地域の連携事業において、皆様には大変ご尽力を賜っておりますことを厚く御礼を申し上げます。また、今回は豊橋市が会場ということで、佐原市長初め、豊橋市の皆様に大変お世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

さて、今回のサミットは、昨年8月から策定を進めております第2次三遠南信地域連携ビジョンの基本的合意をいただくという重要な回でございます。

第1次ビジョンの連携は、本年度4月からは新たに辰野町、箕輪町、南箕輪村の3商工会が加わり、39市町村、3県、53商工会議所・商工会の95団体と多くの構成員や関係者の皆様のお力により推進をしまして、いよいよ第2次のビジョンに移ります。新ビジョンで目標とされている2030年までの10年余というのは、この地域にとって大変重要な時期を迎えます。

一つ目は、自治体を取り巻く環境が大変厳しくなっていることです。人口が減り、財政的にも税収が伸びていく時代では

ないにもかかわらず、社会保障費は毎年毎年伸びてまいりますし、また、老朽化したインフラをどう維持していくかという問題も抱えて、二重苦、三重苦の中で、これから自治体運営は、自治体間の連携というのが大変重要なキーワードになってまいります。そういう意味で、これまでも県境を越えた広域連携として全国をリードしてきたこの三遠南信地域の連携は、大変重要な時期を迎えます。

二つ目は、2030年までにリニア中央新幹線が開通する予定でございます。新たな東西の大動脈ができることになりまして、飯田市には長野県駅が設置され、南信州地域は大きく様変わりします。一方で、東海道新幹線もまた大きな変化をし、沿線地域もいろいろな意味でチャンスを迎えると思います。三遠南信自動車道も2030年までには大幅に整備が促進をされ、三遠南信地域の連携もまた大きく様変わりしてくるだろうと思っております。

こうした2030年までの大きな変化を見据えまして、新ビジョンを策定してまいりましたけれども、本日は、これを皆様にご議論いただき、次のステージに向けての第一歩となる、そういう重要な会議でございます。限られた時間ではございますけれども、活発なご議論をお願い申し上げます。

結びに当たりまして、本日のサミットが新たな時代を開く重要な会議となりますことを心から祈念いたしまして、開会に当たってのご挨拶にかえさせていただきます。

本日は、ご参加、まことにありがとうございました。

開催地代表あいさつ

■SENA 副会長／豊橋市長 佐原光一



SENA副会長、豊橋市長の佐原でございます。

遠路はるばるこの豊橋市にお足をお運びいただき、本当にありがとうございます。心から皆様方を歓迎申し上げます。

さて、私からは、なぜこの連携をするかというお話をさせていただき、挨拶にかえさせていただきます。

実は、今日私は胸に、SDGsという国連の取り組みを象徴するバッジをつけています。このSDGsのバッジは17色で彩られていますが、これは17の開発目標を示しており、2015年9月に定められました。この目標を目指して世界でさまざまな取り組みをしているところがあります。

このSDGsは2001年に定められたMDGsの後継としてできました。MDGsは、主に途上国を様々な貧困から救うことを専らのメッセージとしていましたので、先進国ではあまり話題になることはなかったと思います。SDGsは、この地球を救うためには、先進国にも切迫した課題がたくさんあり、それに時間とお金を割けるのは今の時代が最後かもしれないという、世界全体で非常に重要な政策提案となっているものでございます。

17の目標のうち、前半はこれまでと同様、「みんながきれいな水が飲めるようにしましょう」、「食料が世界中の隅々まで行き渡るようにしましょう」、「教育をきちんと受けられるようにしましょう」ということが中心であります。後半に来ますと、先進国が持続可能な地球をつくるために求められている課題

がたくさん出てきています。そして17番目が、パートナーシップによって世界の問題を解決していきましょうという目標になっています。

私たちはいろいろな単位で連携をしています。例えば小さな単位では、家庭の中でお父さん、お母さんと子供さん、おじいちゃん、おばあちゃんがそれぞれ自分のことを行い、できないことを誰かに助けてもらう、という連携をしながら問題を解決していきます。地域のコミュニティにおいても、いろいろな家庭が集まって問題を解決していきます。市町村も同じです。そして、世界というレベルでは国同士で連携をしながら解決をしていきます。

そして、私たちは三遠南信という単位の中で、行政、大学、経済界や、市民一人一人がそれぞれ連携しており、それを世界に発信をしていく重要な取り組みだと考えております。これまでも、そしてこれからも、この地域が、みんなの力が、それぞれに連携し合って力を合わせて前に向かって進んでいく。そんな大きな取り組みの中心として、この三遠南信サミットがあります。そして、この場所に集まった人たちがそれぞれに、それぞれの分野の中でリーダーとして頑張っていかなければならない、このように思っています。

皆様方には、自分のできること、やらなければいけないことを発信、提案していただき、三遠南信の明るい未来のために、日本の中心としてこれからまだまだ力強く頑張っていけるように、力を合わせていただきたいと思います。

最後に、せっかく豊橋市にいらしたのですから、皆さんが存分にお楽しみいただけるように、私たちも精一杯のお手伝いをさせていただきます。

すばらしい会となるように心からお願いし、そして、ご祈念申し上げます。私からの開催市としてのご挨拶とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

■SENA 副会長／

豊橋商工会議所 会頭 神野吾郎



豊橋の商工会議所の会頭、神野と申します。開催市の商工会議所・商工会を代表して、一言ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

本日は、三遠南信地域の行政並びに議会、商工会議所・商工会、住民団体の皆様方、この東三河の豊橋市へ足をお運びいただきまして、ありがとうございます。また、平素は、三遠南信地域の地域振興に格段のご配慮をいただいておりますご来賓の皆様方におかれましても、大変ご多忙のところ、お越しいただきまして、ありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。

さて、世界の動向は目まぐるしく変化し、グローバル化やテクノロジーの進化など、さまざまなことが起きていると思っております。その中で、この日本がどのようなポジションを持ち、どのような未来を描くかという不安とともに、何とかそれを切り開いていかなければいけないなという思いを皆様方もお持ちなのではないかと思っております。

この三遠南信という、大きなポテンシャルを持ち、そしてもっとも可能性を広げることができるこの地域の取り組みを大きくしなければいけない局面に来ており、新ビジョンはまさしく、この地域が持つ歴史的な価値を大きく花開かせるものだと思います。私たちの力でオープン・イノベーション・プラットフォームをつくっていくことが大事だと思っておりますし、我々経済

人としても、大変これを期待するものです。産官学のいろいろなセクター、住民の皆さん方の取り組みを大きな力として結果を出していくことが必要だと思います。

1日のことですが、今日を一つの機会にして、議論がますます活発化し、行動に移り、実り多きものになるように、そして、いずれは世界中の人が三遠南信サミットに参加するというぐらいになるといいなと思っております。

限られた時間ですが、有意義な時間になりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

来賓祝辞

■国土交通省中部地方整備局

局長 勢田昌功氏



中部地方整備局長の勢田でございます。日ごろから国土交通行政、とりわけ中部地方整備局の取り組む三遠南信自動車道を中心とするさまざまな施策に特段のご支援・ご理解・ご協力をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

本日、第26回三遠南信サミット2018in東三河に、これだけ多数の方が集まられて盛大に開催の運びになりましたこと、心よりお祝い申し上げます。

三遠南信サミットは、三つの地域が県域を越えて連携し、産官学民の方々が一体になりまして地域振興を図る先進的かつ画期的な取り組みであります。今回で26回目ということでございますが、長きにわたり継続的に活発な活動をされましたこと、さら

には、今回は第2次三遠南信地域連携ビジョンを取りまとめられる予定であるということ、深く敬意を表する次第でございます。

また、飯田市におきましては、2027年にリニア中央新幹線長野県駅が開通する予定で、その関連のプロジェクトも含めて、さまざまな取り組みも進められております。

中部地方整備局で整備を進めております三遠南信自動車道につきましては、今年度、佐久間・三遠道路におきまして、(仮称)佐久間インターチェンジから(仮称)東栄インターチェンジ間の延長6.9キロメートルの開通を目指し、着々と整備を進めております。また、これまで環境アセスメント手続を進めてきました水窪から佐久間間におきましても、10月25日に環境影響評価書の報告・縦覧を開始し、事業着手に向けて大きな一歩を歩み始めたところでございます。

皆様が進められている広域連携の取り組みが三遠南信自動車道等のネットワークを活用することによりさらに促進され、ひいては三遠南信地域連携ビジョンの実現のため、本日のサミットは重要かつ、大変意義深いものであると考えております。

本日の意見交換が活発に行われ、取り組みがより具体的に進展し、三遠南信地域がますます発展されることを祈念いたしまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、まことにおめでとうございます。

■愛知県 副知事 加藤慎也 氏



愛知県副知事の加藤でございます。まずは、第26回三遠南信サミット2018in東三河、ご盛会まことにおめでとうございます。本来であれば、大村秀章愛知県知事がこの場に参りまして皆様にお祝いの言葉を申し上げるところでございますが、要務により失礼をさせていただきます。私が大村知事から皆様様へのお祝いの言葉を預かってまいりましたので、代読をさせていただきますと思います。

本日、第26回目を迎える三遠南信サミットが、ここ愛知県豊橋市において、このように盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、ご臨席の皆様には、日ごろから本県行政の各般にわたりご支援・ご協力を賜っておりますことを、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、この三遠南信地域は、日本の中央に位置し、古くから東海道や遠州街道、塩の道と呼ばれる秋葉街道や三州街道など東西南北を結ぶ街道や、豊川、天竜川の水運などにより、人、物、情報、文化などが盛んに行き交う活力ある豊かな圏域を形成してまいりました。

今日でもこの地域には東名高速道路や中央自動車道、東海道新幹線に加え、平成28年2月に県内区間が開通した新東名高速道路などの国土の大動脈が走っております。将来的にも長野県飯田市に中間駅が設置されることとなっているリニア中央新幹線の

整備や、南北を結ぶ軸となる三遠南信自動車道の延伸が計画されているほか、浜松三ヶ日・豊橋道路にかかる調査が国において進められております。こうしたことなどから、当地域のポテンシャルが今後ますます高まり、産業や観光面などを中心に、地域のさらなる発展が期待されます。

そうした中、三遠南信地域では早くから県境を越えた広域での地域づくりの可能性に着目し、行政や経済団体が連携・協力して地域づくりを推進してまいりました。この慧眼と取り組みの先駆性に対し、関係者の一人として誇らしく感じているところでございます。

我が国が本格的な人口減少、超高齢社会を迎える中、こうした地域づくりの取り組みも、より効率的・効果的なものに進化していくことが求められております。そのためには、これまで以上に県や市町村の枠を越えて、知恵を出し合い、さまざまに連携・協力して取り組みの可能性を広げるなど、地域の総合力を最大限に発揮していくことが必要であります。この地域にはそれを実現できるだけの体制も実績もノウハウも十分そろっており、まさに本日のテーマに掲げられております「日本の県境連携先進モデル」へとさらなる進化、飛躍的な発展を遂げることを期待したいと思っております。

私ども愛知県におきましても、平成24年度に東三河県庁をスタートさせ、地元関係者の皆様とともに、地域が一体となってさまざまなプロジェクトを推進してまいりました。また、平成27年1月には東三河8市町村で構成する東三河広域連合が設立され、東三河地域における地域づくりの推進体制はさらに力強いものとなっております。

こうした中、三遠南信地域との連携については、東三河振興の柱として、引き続き力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。本日は、「三遠南信流域都圏の創生～日本の県境連携先進モデル～」をテーマに意見交換が行われると伺っております。

皆様方がこれまで積み重ねてこられた取り組みの成果を踏まえ、活発で充実した議論が交わされることを期待いたしております。

最後になりますが、本日のサミットのご成功と三遠南信地域の連携の強化、さらなる発展を祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

以上、代読をさせていただきました。本日はまことにおめでとうございませう。